ハンドマイク街頭演説原稿例　裏金づくり温存の規制法改定案強行

二〇二四年六月六日　日本共産党埼玉県委員会・作成

※国会審議の進行に合わせて傍線部を適切に修正してご活用ください※

　ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　国会では自民党の提出した政治資金規正法改定案が審議されています。五日には衆議院特別委員会で自民、公明、維新などの賛成多数で可決されました。

　自民党の改定案は、裏金の資金源となる、政治資金集めパーティー券を買った人物の公開基準額を、今の二十万円以上から五万円以上に引き下げるというものです。今でも、自民党と企業が示し合わせて、企業が買ったパーティー券を従業員や関連会社が買ったことにし、公開基準額以下の金額になるように分散することで、名前の公表を避けています。公開基準額が五万円に引き下げられても、分散する人数を増やせばいいだけの話です。しかも、実施は三年後の二〇二七年からで、それまでは二十万円まで非公開のままです。この改定案が成立しても、裏金づくりを今まで通り続けられるではありませんか。

　パーティー券とともに大きく報じられているのが、政党が党幹部などに渡す非公開の政策活動費について、領収証などを十年後に公開するというものです。この政策活動費というものは、今の政治資金規正法に規定がない、脱法行為と言えるものです。今回の改定により、政策活動費が逆に法律で公認され、堂々とお金を配れることになります。しかも十年後に公開されるまで、政策活動費が何に使われたかがまったく表に出てこないことになります。十年たって公開され、違法・不適切な支出が明らかになっても、その頃には党幹部の顔ぶれも変わるでしょうし、党そのものがなくなったり分裂したり合同したりする可能性もありますから、問題の責任はあいまいにされてしまうのではないでしょうか。これでは、なんのしばりにもならないではありませんか。

　みなさん、今回の政治資金規正法改定案は、企業や業界団体からの献金を廃止したくない自民党に、公明党と日本維新の会が修正合意という形で手を貸してつくられたものです。裏金事件の反省がまったく見えない改定でお茶をにごし、裏金問題の真相究明から逃げようとしていると言わざるを得ません。こんな改定案を認めるわけにはいきません。

　日本共産党は、パーティー券を含めて企業や業界団体からの政治献金をいっさい禁止する法案を提出しています。他の野党も改定の提案をしています。日本共産党は徹底的に審議し、国民が求めている政治改革はどの道かを明らかにするため、全力で取り組んで参ります。また、裏金の使い道やお金の流れなど、まだまだ未解明の問題がたくさんあります。引き続き国会で、裏金問題の真相究明を進めていきます。引き続き日本共産党へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

　自民党の裏金問題を最初に取り上げた、日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をこの機会にぜひお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）